

2013年5月15日

## 東日本大震災の教訓と提言を世界の防災に役立てる！ 日本の NGO がジュネーブでの国連 ISDR 会議に参加します。

2013年5月19日-23日、スイス・ジュネーブで開催される国連 ISDR(国際防災戦略)の国際会議に、東日本大震災の被災地で活動した日本の NGO も参加し、市民社会として得た教訓と提言を国際社会に訴えることが決まりました。

国連 ISDR は、2000年に国連総会で設立されたプログラムで、世界防災白書など災害被害を軽減させる国際的な枠組をまとめてきました。2007年以降、国連 ISDR が主催する GPDRR(The Global Platform for Disaster Risk Reduction/災害リスク軽減を目指す国際プラットフォーム)会合は、国連機関や160ヶ国以上からの各国代表者、研究者、NGOらが参加し意見交換を行う場で、今年で第4回目を迎えます。また、今回の会議は、2015年3月に仙台での開催が決まった第3回国連防災世界会議の準備会にも当たります。

現在、防災に関する国際的な指標として使われている「兵庫行動枠組」は、2005年に神戸で行われた第2回国連防災世界会議で採択されたもので、2005年から2015年までの10年間の目標が掲げられています。阪神・淡路大震災から10周年という意味合いで開催・採択されたものの、当時日本では NGO/NPO の認知も薄く、この枠組にボランティアなど市民社会として得た教訓が活かされる場面はほとんどありませんでした。

東日本大震災以降、非常に多くの NGO/NPO やボランティア団体が東北の被災地で活動し災害支援の主要な役割を担いましたが、残念ながらその知見は世界ではほとんど共有されていません。また、原発事故との複合災害による被害の実態も十分に伝わっているとは言えません。多くの方々が犠牲になった東北での経験を、国境を越えた防災・減災につなげていくためにも、今から2015年の国連防災世界会議までの期間が非常に重要だと言えます。

今回、日本の NGO として参加するのは、国際協力 NGO センター(JANIC)、CWS(Church World Service) Japan、ピースボートの3団体の代表者ら。すでに、日本の約20の NGO 代表者らと意見交換を行い、東日本大震災での世界と共有すべき教訓や提言をまとめました。原発事故に見舞われた福島県の農家らも同行し、GPDRRでの本会議やサイドイベントなどでも積極的にアピールする予定です。

以下、今回の NGO 派遣団の GPDRR 参加に関する概要をお送りします。事前事後の国内でのインタビュー、ジュネーブ現地での取材などぜひご検討ください。

### ■ 概要

【会議】 GPDRR(The Global Platform for Disaster Risk Reduction/災害リスク軽減を目指す国際プラットフォーム)会合

【主催】 UNISDR(International Strategy for Disaster Reduction/国連国際防災戦略)

【期間】 2013年5月19日(日) - 23日(木)

【場所】 Centre International de Conférence de Genève (ジュネーブ国際会議場・スイス)

【参加】 大橋正明(JANIC 理事長) / 田島誠(JANIC) / 山本隆(ピースボート災害ボランティアセンター代表理事)、サイモン・ロジャース(ピースボート災害ボランティアセンター)、小美野剛(CWS-Asia/Pacific)、伊藤洋子(CWS Japan) / 武藤一夫(福島県二本松市 / 農家) など

※その他、日本からは政府代表団や仙台市長らも参加を予定しています。

※日本の市民社会からの提言文書、また現地連絡先に関しては、下記までお問合せください。

### ● このリリースに関するお問い合わせは

ピースボート災害ボランティアセンター (事務局: 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1)

TEL: 03-3363-7967 MAIL: kyuen@pbv.or.jp